フィールド（現場）からの風 545

宮田守男

明日は、森林の日。森林の文字は「木」が五つ、総画数が二十であることから制定された記念日だ。この時期に吹く風はさまざまな呼び名がある。木々の緑が匂ってくる感じを「風薫る」、そんな風を「薫風」。若葉を渡る爽やかな風を「緑風」。草原を揺り動かす風を「青嵐」、今日の風は何を感じるのかも楽しみになる季節だ。

コロナ感染症が5類に移行して約2週間が経過、特に毎日報道され続けた感染状況が無くなったためか危機意識が日々薄れていくような気がしてならない。

年齢を重ねるほど記憶力に自信がなくなるのは人間の特性だと言われている。過去を思い巡らせると、不思議に人に怒られたことや恥をかいた経験など、忘れてしまいたい思い出が浮かんでしまう。心理学の分野では「ネガティビティ・バイアス」と呼ばれ、苦い思い出は鮮明に記憶している。再びコロナ感染が流行したなら、どんな嫌な過去を思い出してしまうのだろうか。

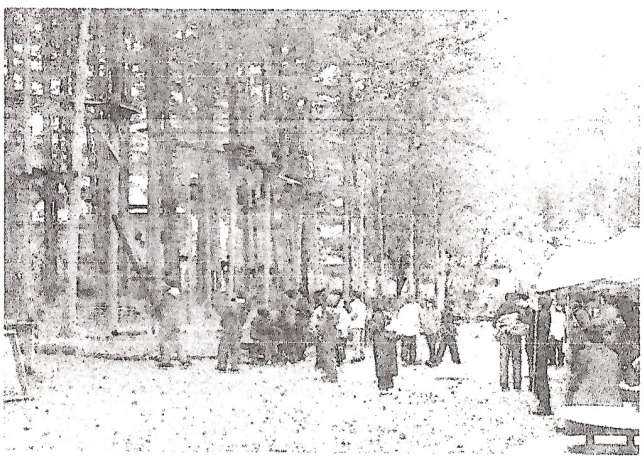
ささやかでも、努力を重ねよう

昔、富山の置き薬を受け取る際に、子供たちにプレゼントされた「紙風船」。黒田三郎さんの「紙風船」、「落ちて来たら・今度は・もっと高く・もっと高く・何度でも・打ち上げよう・美しい・願い事のように」。黒田さんは著書「わが詩よ・わが心」で紙風船をどんなに高く打ち上げても、それは最後には地に落ちる。願い事の多くはむなしくはかない。といったニュアンスから、どうすれば脱け出せるか、努力し願いのためにささやかでも努力を重ねたと。私達自身が経験したコロナ過での苦難を語り続け、感染症への取り組みを続けていかなくてはと考えさせられた。

毎日のように霜注意報。例年に比べ農業用水路の流水が少なく霜対策が心配との声が聞こえる。毎年、野菜苗の育苗をしているが例年に比べ発芽状況が芳しくない事も気がかりだ。

石川県能登地方の地震から全国各地でも大きな地震が続いている。地震専門家は、南海トラフ地震の発生を危惧するとの意見や富士山大噴火が心配と情報を出している。1件の重大事故の背後には29件の小さい事故があり、さらにその背後には300件の軽微なトラブルが起きていると約90年前に提唱された「ハインリッヒの法則」もある。大地震や大災害が起きないことを祈るばかりだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



空中アスレチックで。京都市八幡市の中学学習旅行の生徒たち。小雨の中でも実に楽しそうだ。